

Title	はじめに
Sub Title	
Author	青池, 慎一(Aoike, Shinichi)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2003
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.特別号『将来編』 (2003. )
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	創設50周年記念特別紀要
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-000S2003--003">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-000S2003--003</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## はじめに

慶應義塾大学大学院社会学研究科は、1951年(昭和26年)に新制の大学院として開設され、2001年に開設50周年を迎えた。

本研究科は、この開設50周年を記念して、「21世紀の大学院—大学院における知のあり方、知の創造と伝承のあり方を求めて—」と題するシンポジウムを開催すると共に、大学院社会学研究科紀要50周年記念特別号を2号発刊することを計画した。

そのうちの一つは、本研究科の開設がいかに行なわれ、そしていかなる歩みをたどってきたかといった歴史的側面を扱ったものであり、もう一つの号は大学院の将来のあり方や将来像に焦点をおいたものである。本号は、そのうちの一つで大学院の将来のあり方に関するものである。

本号は、シンポジウムの記録と、多くの方々に執筆していただいた「大学院論」から構成されている。

今日、大学院をめぐる状況は大きく変わりつつあると言ってよいであろう。

それらを簡潔に捉えるならば、以下のように示すことができるであろう。

第一は、これまで以上に、大学院を大学における研究・教育の拠点として位置づける動きである。

第二は、大学院や大学院生が量的にきわめて急速に増加してきていることである。

第三は、大学院の機能の一つであるとされてきた高度専門職業人の養成が、いままで以上に強調され、要請されてきているのである。

そして、社会や多くの人々が、いままで以上に、大学院に関心を持ち、注目し、そしてさまざまな期待を持つようになったのである。

これらを、本研究科にとって無関係なものとすることはできないであろう。

研究・教育活動を充実させ、卓越した研究・教育者や高度専門職業人を養成していくことがいままで以上に、求められていくのである。

大学院をとりまく状況の変化に対し、いかに主体的に対処していくか、そして、単に状況への適応としてではなく、自ら問題を発見し、主体的に変革していくかが我々にとって、大きな課題となっていくであろう。

本号は、このような課題をめぐる我々の論議や検討作業にとって、多くの示唆を与えてくれるのである。

社会学研究科50周年記念事業準備委員会  
青池 慎一